

北杜市立中学校再編整備検討委員会（第5回会議） 会議録

1. 会議名：北杜市立中学校再編整備検討委員会（第5回会議）
2. 日 時：令和5年8月7日（月）午後7時00分～
3. 場 所：北杜市役所 北館3階 大会議室
4. 出席者：
（委 員）保坂智之・小寺亜希子・望月貴光・鈴木良長・辻雅樹・堀込美友・
古屋昭彦・山田輝夫・石川博之・萩原長人・日向五十鈴・
前田久美・小林明・輿水清司
（事務局）進藤政策推進課長
加藤教育部長・鷹左右教育総務課長・
進藤教育指導監・浅川総務担当リーダー・大久保総務担当
5. 議事
（1）これまでの経緯と検討内容について
（2）市内小中学校説明会での質問・意見集約の状況について
（3）その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：9人

議 題

(1) これまでの経緯と検討内容について

(委員長) ただいま事務局から、昨年度意見集約された内容、そして、今年度6月中旬から、各北杜市立小中学校全18校を回って説明した内容を説明してもらいました。この内容について、委員の皆様からまず質問等がありましたらお願いします。

(委員) 資料3のことについてですけども、水平統合2校とした場合、令和10年度は509人と393人となっていますが、これはどのような分け方をされているのでしょうか。

(事務局) これにつきましては、あくまでも今の小学校9校を、地理的なことだけ考慮して半分に分けたという程度でありまして、深い意味はなく、あくまでも例として示したものであるということでお願ひします。

(委員長) 一応、地理的なことを踏まえて機械的に分けたもので、今の案ということではありません。今のご質問に対しては、今後、この検討委員会で、具体的なものを考えていくということになるかと思っています。では、(1)の議題の内容につきましては、確認されたということで、次に移らせていただきます。(2)の議題について、事務局から説明をお願いします。

(2) 市内小中学校説明会での質問・意見集約の状況について

(委員長) ただ今、説明がありました。最初に話したように、これは7月の段階のもので、まだ今も、書面での意見が届いている状況でありますので、最終的には、次回の検討委員会でまとめた資料を確認することになるかと思っています。今の段階のものであるということをご了承ください。委員の皆様から何かご意見はありますでしょうか。

(委員) 5ページ、通学についてですが、私が中1になった時に高根中のスクールバスの運行が始まりました。私は最も遠いところからの通学でしたので、非常に助かりました。部活動や色々な行事は、土日も含めてあるので、登校日以外も移動したいというような願いが出てくるかと思っています。今、デマンドバスが、各地域で運行されていますが土日は運行されていません。地域住民にとっても、土日の催しにいくデマンドバスがなく不便さを感じていることもあります。そういった意味で、スクールバスは多様な運行ができるようなことを考えていかなければいけないと思います。安全面だけではなくて、その活用も含めて、検討の内容に含めてほしいなと強く感じているところです。

(委員長) スクールバスが安全であることは当然で、利便性というか、子供たちの活

動ができるような形にするべきというご意見として、受け止めたいと思います。

(委員) 6 ページの人間関係についての 1 番下のところですが、高学年のうちに他校との交流を、と書かれています。小学校の校長として、確かにそうだと思います。現状は、各学校それぞれの教育が基本になっていますが、北杜市の小学校 6 年生は、陸上競技会で長坂のグラウンドに集まって、それぞれの練習した成果を認め合い、確かめ合う機会があります。こういったことを具体的に実施しながら、交流を図ることは大事なことだと、感じています。

(委員長) 統合によるストレスを減らしていく取り組みが、今後望まれるということもあると思います。

(委員) 6 ページの教員についてですけれども、武川中は小規模校ですので、先ほどの資料 1 にあったように、教員 6 名、非常勤が 4 名という実態です。ほぼ全教科が 1 名という中で、教員の年齢構成は 20～30 代が多く、やはり若手教員の育成は重要だと思っています。

経験がないわけではないですが、教科 1 人という中で、不安を抱えながら、他学校の先生にも相談しながら、研究会等で研修をしながら、いろんな教育活動をしている状況があります。また、昔のように長い間学校にいたことが少なくなっている中で、3～4 年で移動されてしまうと、次に残していくというところも大きな課題になっています。組織的な対応ができることによって、学校教育が継続的に、より良く見直されていくわけですが、ほぼ 1 人の先生に任されてしまい、非常に負担になっているのが現状だと思います。大きな学校であっても、継続していく工夫は必要になると思いますが、小規模校だからこそ苦しいところはあります。

(委員長) 今、小規模校の中学校の教員の構成の実態をお話いただきました。教科教員が、0 か 1 かということで、1 の場合も、引き継ぎはなかなか難しいということでした。あと、年齢構成の部分も、教科で 1 名しかいないので、新採用の先生が来た場合には、非常に不安を抱えてやるという状況は十分考えられます。

(委員) 7 ページの地域についてですが、私はスポーツ少年団の子供たちと付き合いが来て、以前は白州の子供だけで活動していましたが、今は、小淵沢、高根、遠くは韮崎の辺りの方も、一緒に活動したいということでやってきました。その子供たちの様子を見ると、地域にこだわっているのは大人だけだと感じます。我々の中学校時代は、武川に負けるなとか、長坂に負けるなとか、そういう雰囲気が学校全体にあって、子供もそういう感

覚をもっていて、喧嘩なんかもした記憶もありますが、今はそういうことはほとんどありません。大人が1番地域にこだわっている。そんなにこだわる必要はないと思います。一緒になって地域が交流しながら、いろんなことをやっていかなきゃいけないのではないかと考えています。地域に、地域の良さを残すのは、大人の人たちが抱えて自分たちでやるべきことであって、そうすることで子供たちが魅力を持つような地域に、大人がしていかないとはいけなだろうと思います。

学校現場のことを考えると、小人数級と小規模校の考え方が随分混同され、1人歩きをしているように感じます。小規模で教育することと、小人数で教育することは全然意味が違います。小人数教育は、50～60人の集団を15人、15人、15人と分けて、子供たちの希望を叶えてやるような教育、小規模教育は、集まる子供が少ないところで行われる教育だと思います。小規模教育になりますと、資料でも父兄の方から色々心配が出ていますが、いろんな人間関係の中で成長していくという部分がものすごく阻害されてしまう気がします。私は、高校の教員をしまして、その時に1番考えたのは、ソフトボールのチームで試合ができないようなクラスは、やはり活気がないということです。何をやるにしても、集団的なスポーツもできないというジレンマを抱えていますし、子供の積極性が少なくなるということも実感として持っています。

そんな中で色々申し上げますが、地域ということにこだわることはないようにしていきたいと思っています。先ほどから出ている学校間の交流を大いに考えて、できる体制を整えていくことによって、統合された中学校で新しい人間関係を作る準備をしていくことが重要です。地域を忘れてしまうという風な考え方ではなく、自らの地域の良さを仲間に伝えていくような教育をぜひお願いをしたいと思っています。

(委員長) 地域の良さを残しつつ、大人の方からそれを子供に伝えていくということかと思っています。資料には、子供が地域に愛着が持てなくなるという視点が書いてあるわけですけど、私は、この地域という捉え方を、今後は北杜市という広い地域で考えて、北杜市に愛着を持ってほしいと、感じています。8ページの意見の収集・周知について、事務局の方で、現時点で考えていることはありますか。

(事務局) 中学校の再編を考える上では、様々な年代の方の考えを聞いていくことが必要ではないかと思っています。ただ、意見を聞く上においては、意見を出される方々がどういう背景や文脈で意見を出されるかということも考えた上で、意見聞き、汲み取っていくことが、必要じゃないかと思っています。現時点で、この年代は必要だとか、いらないだとかいう考えは持っておりませんが、意見を聞くにあたっては、ある程度客観性を持ちながら、それぞれの世代でどのような思いを持っているのかを、しっかりとお

答えいただけるような環境を整えた上で意見を伺うことは、有意義なことだと考えています。

(委員長) 仮に未就学の保護者の皆さんに意見を聞くことがある場合、中学校の現状を知らない状態でどちらがいいですかと聞かれると、やはり、近くに学校のある方がいいと答えると思います。小規模校の中身がどういう状態にあるのか、きちんと理解した上で、意見を聞けるようであればいいと思います。なので、情報の周知も含めて、今後、検討していければと思います。その他、何かご意見ありますか。

(委員) 子供を持つ親の立場で発言した方がいいと思ひまして。今まで、小中学校の、保護者・先生向けの説明会を行い、ご意見を伺って、それだけでも相当な意見が出ています。肯定的な意見であったり、否定的な意見であったり、改善すればいいですよというような意見があったり。今後、地域説明会もあるとのことですが、その後どうやって集約するのでしょうか。意見を集めるのは簡単です。一方で、去年の検討委員会で、水平統合が望ましいと出ています。なので、今後求められることは、水平統合が望ましいということ踏まえた中で、どういう水平統合をしていくかということではないですか。今、意見を伺っていくと、そもそも統合するのは嫌だという意見がいっぱい出てくると思ひます。そういう意見をどうやって集約、整理していくのでしょうか。今の意見は保護者としての意見です。地域から意見を聞いてくると、多分、おじいちゃん、おばあちゃんの意見が大半になると思ひます。そうなった時に、どこに重きを置いてもらえるのかというところが、非常に不安です。

もう1つ、いざ統合しようとする、相当な年数がかかると思ひます。仮に今決めたとしても5年後となると、今の小学校5年生までは統合校に通えないということになります。早くても小学校4年で、今から7年後かもしれないということになると、小学校3～4年も通えず、小学校2年からです。どういうスタンスで市は進めていくのか。進めるのであれば、とにかく早く進めてもらいたい。現状は、学校がほんとに小規模で、何もできなくなっています。実質、垂直統合、オーバーにいうと、保育園から垂直です。保育園、小学校、中学校となると、12～3年です。ちなみにうちの子供は、保育園の頃からいじめられっ子です。そういうところもよく踏まえていただきたいです。

あと、地域の意見の中には移住者が減るといった意見がかなりあります。市も移住施策で、人口を維持し、子供の人口を維持するという事は頑張っていると思ひます。しかし、中学校の再編においては、今いる子供たち、北杜市で生まれ育った子どもたちをまず大事にしていきたいです。このような考えから、中学の統合をスピーディに進めることが課題と思ひています。

(事務局) 色々、意見いただきまして、ありがとうございます。まず、スピード感に関してですが、ご指摘の通り、統合することを今決めたとしても、来年できますということにはなりません。それぞれの学校で、活動が違うわけですから、そこを合わせていかなければいけないということと、校舎の改修などもありますので、時間がかかるということは確かです。加えて、6月から7月にかけて小中学校を対象に説明会を実施しましたが、やはり、現時点では色々な意見が出ていると思っています。今回、学校に対する説明会を開いた主なポイントは、中学校の現状や制度をご理解いただいた上で、子供たちにとって、どのような学校が望ましいかということを、しっかり考えていただくということにあると思います。先ほども、様々な世代の意見ということに触れさせていただきましたが、しっかりとしたデータ、状況などを踏まえた上で判断をしていただくことが必要であると思っています。スピーディさには欠ける部分があるかもしれませんが、しっかりと状況を話した上で、ご意見を伺うということ積み重ねていく必要があると思っています。

あと、今の中学生、小学校の高学年の子供たちが通えないとのご意見がありました。現在の中学校のお子さんを抱えている保護者の方の思いというのは、やはり、大事にしていかなければいけないと思っています。時代が変わっても、すべてが変わるわけではないと思っています。やはり、現状を踏まえた上で、親御さんたちがどのように考えるのかということは、貴重なご意見と捉えています。委員の皆様には、そういった意見を踏まえながら、議論をお願いしたいと思っています。

(委員長) 最初に説明させていただいたように、北杜市の中学校の統合については、平成26年に案が出て、平成29年に白紙になりました。その時点でもし合意が得られていれば、今は統合から5年ほどたっているような時期かと思えます。しかし、地域の皆さんや、関係者の判断でそういう風にはならなかったわけです。一方で、子供たちの状況は一層厳しいものになってきているという事実がありました。そこから、審議会を再設置し、答申を得るのに2年半を要しました。2年半を要するほど様々なご意見が出て、結局、3案という形での答申になりましたので、検討委員会も3案からのスタートということになっています。その3案をどう絞って具体的な形にしていくかということで、このような経過が結論までに時間がかかっている原因になっています。ただ、個人的には、子供の教育環境ということを中心に考えて、その部分を丁寧に説明していく、そんな話は知らなかったということは決してないようしていきたいと思っています。

今回の小中学校の説明会は、資料をまず全世帯にお配りしたので、今回このことを知らない保護者はいないと思います。説明会に来てくださった方、あと書面に書いて出してくださった方、多数いますので、今回のこと

で理解が進んだとも思っています。ただし、それが水平なのか垂直なのか、
どういう形がいいのかということについては、まだ合意までは得られてい
ません。スピード感を持ってほしいというのは重々承知の上で、私たちの
意見は全く無視されて決められていったってということがないような状況
の中で、合意形成を進めていきたいと思っています。先ほど、統合校に通
えない保護者、子供たちの意見はないにも等しいのではないかとというご意
見もありましたが、私は決してそういうことではなくて、直接関わらなか
った中学生も今の思いを意見として出していただくことで、これから中学
生になる子供たちの環境に生きていく、形になっていくことを願っていま
す。

移住者の意見はだいぶ出ています。それは、私たちも肌で感じたことです。
小規模校に惹かれて移住してきたという方も実際にいました。でも、その
方たちにも、地域の学校というものと、中学校の教育環境ということをし
ちんと考えた時に、どちらが魅力的かということは、きちんと説明してい
きたい、理解していただきたいと思っています。個人的には、小学校が近
くにあることは大事だと思います。中学校も近くにあるにこしたことはな
いのですが、教育のシステムが違うので、中学校は教育環境を優先して考
えると、地域が多少広くなるのは、仕方のないことだと思います。北杜市
という単位の中で、中学校を考えていくことは、それはそれで意味のある
ことだと思っているところです。

これまでの話を踏まえて、私の方では、今後の中学校の再編について考え
る視点が6つあると理解しました。1つ目は、生徒の教育環境の視点です。
人間関係の広がりであるとか学習集団の活動に関わる生徒の教育環境の
視点です。2つ目が、学校の教育指導の視点です。教員配置、組織的教科
指導、生徒指導などです。この2点は、中心に置くべき視点と捉えていま
す。3つ目は、通学に関わる視点です。水平統合を進めていく場合には、
十分検討し、配慮していく、それは学区の問題も含んでいると考えていま
す。4つ目は、地域との関わりの視点です。水平統合を進めていく場合に
は、配慮が必要と考えています。5つ目は、学校の施設設備の視点です。6
つ目は、移住される方々の視点です。この6つの視点を持ち、今後の具体
的な検討につなげていきたいと思っています。

(3) の議題について、事務局からお願いします。

(3) その他

(委員長) これについて何か質問ありますでしょうか。この資料については、今後、
学校規模、学級規模、授業規模をきちんと理解した上で検討を進めていけ
ればと思っています。本日の議事は以上で終了とさせていただきます。議
事進行にご協力ありがとうございました。